

安全・安心を担う人材を育てる

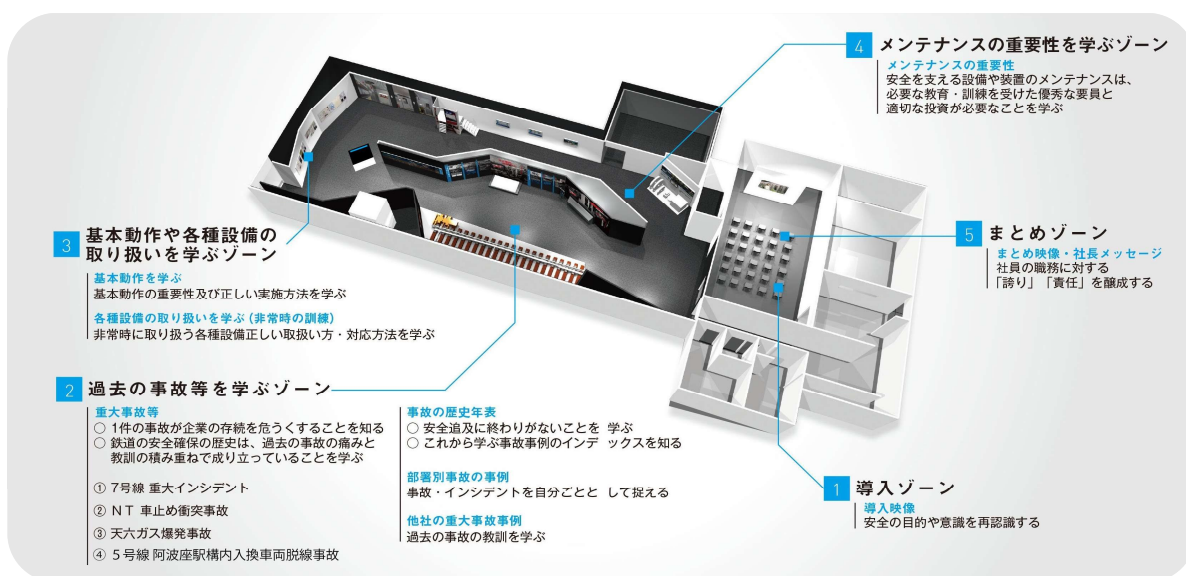
地下鉄・ニュートラムの安全・安心は、社員一人ひとりの意識・行動のもとに確保されています。その意識・行動を育むために、Osaka Metroでは「人づくり」に力をいれています。

| 全社員への安全研修

全ての社員が、職種を越えた研修を通じて自分たちに「何が必要なのか」、「何をしなければならないのか」を考える研修を、輸送の生命館（安全研修施設）で行っています。

輸送の生命館とは

「事故の原因や背景」「安全運行とは何か」「事故の恐ろしさとはどのようなものか」について展示物や、当時を知る関係者の声から学び、ルールの制定を知るとともに、事故の教訓を風化させないために設置した施設です。



2020年・2021年度の安全研修内容

主な研修内容	
研修概要(現状認識)	2020年度経営トップコミットメント等の現状認識を踏まえて
交通事業本部長メッセージ	
安全に関するハンドブック	安全方針の再周知
事故から学ぶ (輸送の生命館展示物を活用した研修)	当社の事故から学ぶ(天六ガス爆発事故) ●天六ガス爆発事故は、50年の節目となることから事故の教訓を振り返り、大きな事故を絶対に起こさないという安全意識を高める。
各部門別項目	【運輸部・技術部】 ●他社事例を活用し、「安全な運行とは何か。事故の怖さ恐ろしさとはどのようなものか。」などを再認識する。 【本社関係(コーポレート部門)】 ●Osaka Metroの基礎は鉄道であり、その鉄道事業は安全・安心の基盤の中で行わなければならないことを理解しておく必要がある。 【グループ会社関係】 ●緊急時の対応として、緊急章の使用及び非常梯子、非常停止ボタン、車内通報装置などの取り扱いについて実戦形式で研修を実施する。
まとめ	●重大な事故を絶対に起こさないという決意 (過去の事故を風化させることなく、お客さまに与えてしまった痛みを決して忘れてはならない) ●ルールや取組みの背景を考える ～再発防止のため～ (現在も行われている対策や取組みの意義や目的を考える) ●教訓を心に刻む ～未然防止につなげる～ (過去の事故を振り返り、謙虚に学び、教訓を自分のものにして未然防止へと役立てる) ●研修効果チェックシート

安全・安心を担う人材を育てる

発表会等を通じた知識・技術の研鑽と展開

研修・訓練で多くの知識や技能をインプットするだけでなく、コンテストや発表会を通じてアウトプットすることで知識や技能の定着化、他者とのコミュニケーション活発化を図り、安全・安心の更なる向上に努めています。また、表彰を行うことで、個々人のモチベーションの向上も目指しています。

駅スタッフサービス向上コンテスト

管区駅毎に選抜された駅スタッフが、接客スキル及び知識を競いました。接客力の向上とモチベーションの向上に繋げ、「お客さま満足度」の向上を図っています。



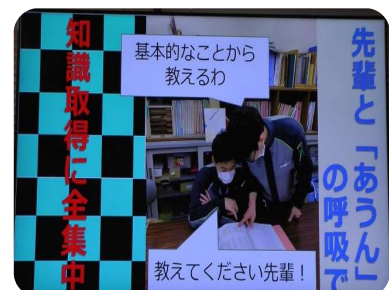
電気技能競技会

電気設備は鉄道に安全に欠かすことのできない重要な設備です。その電気設備にトラブルが発生したことを想定し、所属毎の各チームが復旧作業を披露し参加者相互で再確認することにより、不測の事態においても速やかに対応が図れることを目指して実施しています。



車両事業所発表会

コロナ感染拡大防止の観点から、予め発表チーム毎に撮影した動画について、発表会形式で開催いたしました。新人育成をテーマとし、各事業所の取り組み内容を部内共有することで、育成指導する先輩社員の新たな気づきに繋げるとともに、研修の教材に活かしております。



保線競技会

緊急時の対応を想定し、所属が異なる社員がチームを組み、クレーンによるレール積み込み等の技能・手順・ルールの理解度について審査する保線競技会を開催しました。作業中に発生した過去の事故・トラブルから学んだ教訓やルールを風化させないこと、また、業務における柔軟性と機動力を維持向上させることを目的としています。



建築工事安全大会

工事受注者を対象に、過去に発生した事故の芽事象などの実事例を題材として、とりわけ工事作業員の「ヒューマンエラーに起因する事故」や「労働災害」の防止とその徹底を目的とした講習会を定期的開催しています。



安全に関する取組み発表会

Osaka Metro Group全体の安全意識の向上と発表者やその所属の業務に対するモチベーションの向上を図るため、2011年度より、安全に関する取組み発表会を実施しています。

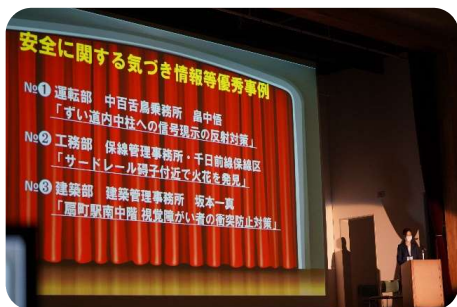
2020年度（第10回）は、鉄道事業本部内の駅務部・運転部・電気部・車両部・工務部・建築部で予選会を実施（49グループ）し、大阪シティバス株式会社、株式会社大阪メトロサービスの代表チームを含む10チームが本選に出場しました。（2020年度は、緊急事態宣言下での開催のため、録画審査にて開催しました）



安全に関する気づき情報等優秀事例表彰及び 本社部門における安全の取組み発表

Osaka Metro社員の全員参加による安全意識のさらなる向上及び職場環境の改善を図るとともに、安全輸送の更なる向上を目的として、事故の芽情報（ヒヤリハット、社員の気づき）に基づいて防止対策を実施し、安全確保に顕著な貢献があったと認められる社員もしくは事業所に対し表彰を行いました。

また本社部門における安全の取組み（自分たちの業務が安全、安心の追求にどのように関係しているかについての具体的な取組み事例）で優秀賞に選出された部の表彰を行いました。



安全講演会

安全講演会は、1993年10月5日に発生させた「ニュートラム車止め衝突事故」を教訓とし、事故を繰り返さないよう、運輸部門と保守部門が一体となり、安全運行並びに事故防止の強化の取組みの一環として地下鉄・ニュートラム安全運行強化週間（毎年10月5日～11日）の期間に合わせて開催しています。

2020年度は、立教大学名誉教授の芳賀 繁先生を講師にお迎えし、「セーフティIIの実践～『失敗を防ぐ』から『成功を続ける』マネジメントへ～」をテーマに録画配信にて開催しました。

安全・安心を担う人材を育てる

| 専門研修・訓練（運輸系の研修等の一部を紹介）

運転士の養成・訓練

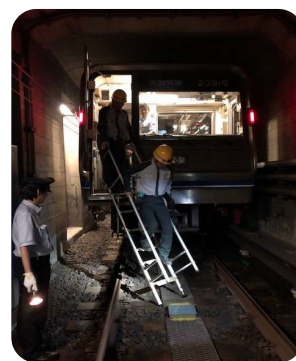
お客さまに最前線で安全を提供する立場にある運転士は、身体的・精神的な資質のほかにさまざまな知識・技術の習得が必要です。

国土交通省から指定された動力車操縦者養成所において、専属の教師が自身の経験などを含めた幅広い教育を行うとともに、実際の線区における指導操縦者による細やかな電車の操縦訓練により、安全意識の高い運転士の養成に努めています。



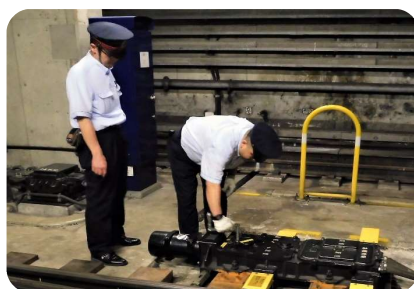
異常時対応力を高める訓練

故障や災害などの事象への適切な対応力を高めるため、各乗務所に設置した運転シミュレータを用いた訓練や、異常時にお客さまの適切な避難を想定した避難誘導訓練などを行っています。



駅係員による信号保安装置故障時の対応訓練

輸送指令所から駅の信号機を遠隔制御できなかった場合に備えて、当該駅の信号制御装置を操作して電車の安全運行を確保する訓練等を行っています。



| 専門研修・訓練（保守・技術系の研修等の一部を紹介）

技術部（電気）

「災害を想定した訓練」は毎年テーマを決めて実施しています。昨年度は保守作業中に作業員が転倒により負傷したことを想定し、負傷者の応急処置や救急要請などについて訓練を実施しました。



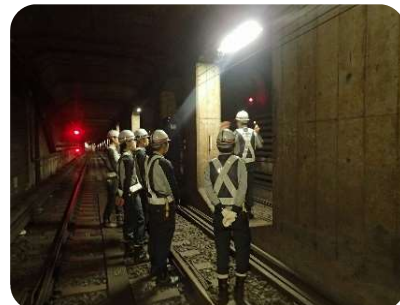
技術部（車両）

万が一、車両が脱線したことを想定した脱線復旧訓練、車輪が固渋して回転しなくなった場合を想定した車軸不回転の訓練、また、洪水の際に地上の検車場から地下にある本線への水の流入を防ぐため、鉄扉の開閉状況確認も含めた取扱い訓練なども実施しています。



技術部（工務）

過去に発生した触車事故を風化させないため、実際に触車事故が発生した現場において、どのような環境下で事故が起きたのかを学ぶため、他部門の社員とも連携し実地研修を行っています。常に危険と隣り合わせの職場であることを意識し、日々現場において慎重を期して考動できる人材の育成を目的として実施しています。



技術部（建築）

事故やトラブル、自然災害等に対する危機管理として、柔軟に対応する個人を含む組織力の向上を図る情報伝達・対応訓練を実施しています。また、若手社員を対象に、一般地上建築とは異なる地下鉄における建築施設の適切な管理に必要な知識等について、座学や現場管理上のOJT等を通じたサポート研修を実施しています。



安全・安心を担う人材を育てる

| 専門研修・訓練（保守・技術系の一部を紹介）

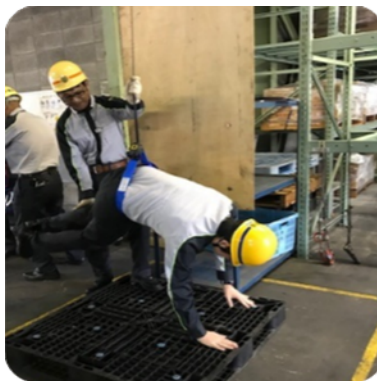
労働災害体感研修

労働災害に対する教育は、机上教習では臨場感がなく、災害時の本当の怖さを伝えきれないことから、安全に対する意識を高めるため、危険体感施設（実際に危険を体感できる施設）にて体感研修を実施しています。

※体感研修の一例を紹介

墜落制止器具装着体感

墜落制止用器具の種別や正しい使用方法（着用位置、締め方など）の説明と、正しい装着と正しくない装着時の危険度を体感



胴ベルト型装着体感



ハーネス型装着体感

脚立の特性と正しい使用方法を体感

脚立の特性を知り、正しい方法での使用が、安全かつ作業効率の向上につながることを体感（2段目に乗る方が体が安定し、且つリーチ距離も伸びることを体感）



壁押し体感



リーチ距離の測定

| より良い職場環境づくりに向けて

2021年4月に社員Well-being推進本部を創設し、社員一人ひとりが仕事への誇りとやりがいを感じ、生き活きと働きやすい風通しの良い職場環境づくりや、社員全員が協力し支え合う組織風土づくりに取り組んでいます。